

三鷹市教育委員会 様

学園・学校名 三鷹の森学園三鷹市立高山小学校
校長名 川崎 一 範 (公印省略)

令和8年度教育課程について(届)

このことについて、三鷹市公立学校の管理運営に関する規則に基づき、教育支援学級(知的障がい)の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

1 学園の教育目標

(1) 学園の教育目標

三鷹の森学園は、小・中一貫教育を通じ幅広い知識と教養、真理を求める態度、豊かな情操、健全な心身など全人格的に調和のとれた人間力と社会力の育成を目指すとともに、情報化、グローバル化等のさらなる進展を踏まえて、次の4つの資質・能力の育成を通じて児童・生徒の「生きる力」を育成する。

ア 社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力

イ 自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力

ウ 多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力

エ 困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力

(2) 学園の教育目標を達成するための基本方針

スクール・コミュニティの創造を目指し、学園カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、教科等横断的な取組や、小・中学校のつながり、地域を生かした教育活動を通じ、学園の教育目標に示した4つの資質・能力について、家庭・地域と共有しつつ、9年間の教育活動を通して育成する。

ア 社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むとともに、学習活動における日常的なICTの活用を通して、社会の変化に対応できるデジタル・シティズンシップの育成を図る。

イ 自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力

各教科等では、問題の解決に向けて児童・生徒の「粘り強さ」と「自らの学習を調整する力」が発揮される学習課題と学習活動の工夫に取り組む。

ウ 多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力

社会に開かれた教育課程の下、地域の教育資源の活用を図り、児童・生徒が地域社会の一員としての自覚と誇りをもち、こども基本法等を踏まえた児童・生徒の成長を促す、安心、安全、快適な学校環境と目標に向けて取り組もうとする学園風土を醸成する。

エ 困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力

人や社会とかかわる活動や、社会貢献活動等を通して自己有用感とレジリエンスを高め、生涯にわたってたくましく「生きていく力」を育成する。

オ 三鷹市の条例の基本的な考え方にに基づき、11月の平和教育月間]及び、「三鷹市平和の日」(11月30日)を含むこの期間に、道徳科の授業などを通じて児童・生徒の平和意識の醸成を図る。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校としての重点

ア コミュニティ・スクール委員会での報告、承認並びに協議の活性化を通して、地域との協働による学園運営の充実を図る。

イ 社会に開かれた教育課程の実現のために、学園教育目標を家庭や地域と共有するとともに、教職員と児童・生徒、保護者との間に信頼関係を築けるようにそのビジョンの理解と周知を図る。

ウ 9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「三鷹の森学園版カリキュラム(令和6年度改訂)」・「カリキュラム・マネジメント・ガイド」に基づいて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と実践に取り組む。令和8年度は、特に主体的に学習に取り組む態度の育成に重点を置く。

エ スクール・コミュニティ推進員の活躍を通して地域ネットワークの拡大と充実を図り、地域人財や知的・情報資源を活用した学習指導や「学園サポーター」を活用した教育活動、大学等と連携した「地域未来塾」などの取組を積極的に進め、「学校3部制」のとの連携・関連を図り地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。

オ 「三鷹の森学園版カリキュラム(令和7年度改訂)」・「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を活用し、義務教育9年間の連続性と系統性のある学習のさらなる充実に向け、小・中一体となって指導に取り組む。

カ コミュニティ・スクール委員会と連携して熟議を重ね、児童・生徒に地域社会の一員としての自覚と、持続可能な社会の創り手としての力を育成する。

2 学校・学級の教育目標

(1) 学校の教育目標

- ◎ア 考える子ども (知育) 社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力を育成する。
- イ 心豊かな子ども (徳育) 多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値、社会を創造する力を育成する。
- ウ じょうぶな子ども (体育) 困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力を育成する。
- エ 実行する子ども (才育) 自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力を育成する。

(2) 教育支援学級の教育目標

- ◎ア 自分のめあてに向かってすすんで取り組み、考える力を育成する。
- イ 関わり合いを通して、自分の気持ちを表現させ、思いやりの心を育成する。
- ウ じょうぶな体とたくましい心を育成する。
- エ 自分のことは自分でしようとする意欲と態度を育成する。

(3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- ア 学校の教育目標「考える子ども」を受け、「自分のめあてに向かってすすんで取り組み、考える力を育成する」を令和7年度の重点目標とする。これからの社会をたくましく創造的に切り拓いていける資質・能力の育成を図り、個人と社会のウェルビーイング実現のため「人間力」「社会力」を主体的に発揮できる子どもの育成を目指す。
- イ 家庭・地域との連携を強化し、「6つの学習習慣」(三鷹の森学園スタンダード)と望ましい生活習慣について保護者と共有し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。開かれた学級をめざして日常的に学級を公開し、地域の人々の理解と啓発を図る。
- ウ 教育支援における個別最適化を一層推進するため、児童一人ひとりの発達や障がいの実態、固有のニーズを的確に把握し、個別の教育支援計画や個別指導計画に基づいて、個に応じた指導の充実を図る。
- エ 児童相互が豊かな関わりをもてるよう、必要に応じて個別やグループの指導、学級全体での指導を行う。
- オ 教職員間で成果と課題を共有し、児童一人ひとりの特性に応じた具体的なめあてをたて、授業の改善を図る。
- カ 児童の実態に応じて、学習用タブレット端末や短焦点プロジェクター等のICTを積極的に活用し、社会の変化に対応できるデジタル・シティズンシップの育成を図る。
- キ 「特別の教科道徳」を児童の発達段階や課題に合わせて展開し、友達との豊かな関わり合いの中から、一人ひとりの実態に応じた課題を設定し、主体的に考える力の育成に努める。
- ク 交流及び共同学習の年間計画に沿って、通常の学級の教職員との連携を図る。学校行事、たてわり班活動、学年交流、教科学習、掃除交流などを通して、児童の実態に応じた交流を行い、児童相互の理解を深める。
- ケ 「プレ中学校体験」「教育支援学級学園交流会」を通して、学園の教育支援学級間の交流を深め、小中一貫9年間の連続性を重視した教育の充実を図る。
- コ 作業療法士や言語療法士の助言を活かし、児童一人ひとりの長所や得意な面を伸ばすための指導の充実を図る。
- サ 生涯を通して運動に親しみ、健康の増進と体力の向上を図ろうとする態度を養う。

(4) 学園の教育目標を達成するための学校としての重点

- ア スクール・コミュニティの創造を目指し、「三鷹の森学園版カリキュラム(令和6年度改定)・マネジメント・ガイド」を実践し、教科等横断的な取り組みや「主体的・対話的で深い学び」の視点で全教科、領域の授業改善を行うと共に、9年間の系統的な指導により学園の教育目標にある4つの資質・能力の育成を図る。基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに活用を図る学習を重視し、学習用タブレット端末、短焦点プロジェクター等、ICT機器を活用した指導の工夫改善を図る。
- イ 学園サポート事業の学園サポーターを計画的に活用し、学校行事や学園行事、児童・生徒の交流や地域人財・保護者等、人と関わる学習や体験を計画的に実施し、豊かな人間性を育む教育を進める。
- ウ スクール・コミュニティ推進員の活躍を通して地域ネットワークの拡大と充実を図り、地域人財や知的・情報資源を活用した学習指導、大学等と連携した「みたか地域未来塾」などの取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。

第1表の3

学校名 三鷹の森学園三鷹市立高山小学校(わか竹学級)

- エ 複雑化・多様化する課題に対応するとともに、新しい時代に求められる資質・能力を育むために、学園・学校内外の多様な人財のより機能的な活躍を図ることで学校のマネジメント力を強化し、「チーム三鷹の森」「チーム高山小」として教育活動を組織的に向上させる体制を構築する。
- オ 児童への豊かで実りある教育活動を行うために、すべての教職員等が児童の権利に関する条約の四つの原則（①差別の禁止、②児童の最善の利益、③生命・生存・発達に関する権利、④意見を表明する権利）を理解し、教職員同士（事務職員や学校用務員、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等も含む）はもとより、教職員と関係機関や地域の人々が連携・協働できる組織風土（雰囲気）や体制を整備する。